

阿岐のまほろば Vol.12

出土した^{てん びようじゃく}天平尺

^{しせきあきこくぶんじあと}史跡安芸国分寺跡 ^{さいじょうちようよしゆき}(西条町吉行)



出土した物指

平成9年9月から11月まで調査した史跡安芸国分寺跡から、奈良時代の物指が出土しています。調査途中では加工された板ぎれとされていたが、遺物をていねいに洗っていく中で物指と判りました。

物指は途中で折れていて全部は残っていません。材質はヒノキで、長さ約20.5cm、幅約2.3cm、厚さ約0.6cmの大きさです。1寸の大きな目盛りとその中間に5分の目盛りが刻まれています。



安芸国分寺跡位置図 (1:50,000)



平成9年度調査区（手前、調査区隅がSK09、北東から）



瓦が出始めたSK09（西から）



出土した多量の瓦



瓦の下から出た木材（端が山形になっているのが物指）

全部で6寸ちょっとが残っていますが、その1寸毎の長さを見ると、2.94～3.05cmとばらつきがあります。当時の物指は、目盛りが均等に刻まれていることはなく、多少のばらつきがあるのが普通で、その中でも今回出土したものは、ばらつきの少ない精度の良いものです。復元すると1尺（＝10寸）が約29.7～29.9cmで、まさに奈良時代に使われていた制度尺（通称「天平尺」）です。

物指は、調査区域の北東の端の大きな穴（SK09）の底近くから他の木材と一緒に出土しました。この穴は上から順に、①緑釉陶器や墨書のある須恵器を含む層、②国分寺の創建時に使われた瓦を含む層、③木材を多量に含む層、④穴の底に堆積した遺物を含まないヘドロ状の層に分けられ、それぞれ、①9世紀後半、②9世紀前半から後半、③8世紀末から9世紀初め、④8世紀後半から8世紀末の層と考えられます。

物指が捨てられたのは③の時期ですので、物指がつくられ、使われたのは、8世紀後半頃と考えられます。

物指の出土した穴は、今回の調査区の外側へ大きく広がることが推定され、大きな池だった可能性があります。国分寺の建物を建てる時に木材のアク抜きなどをした貯木池（木場）だったものが、建物がたてられた後に、ゴミ捨て穴として使われ、最後に整地されたようです。

古代の物指の出土例は、全国的にも少なく、ほとんどが藤原宮や平城宮、平安京など近畿地方（当時の中央）に集中しています。諸国に造られた国分寺の発掘調査は全国的にされていますが、これまで物指は出土していませんでした。

国分寺は国家プロジェクトとして建てられた寺で、当時の最新技術が駆使されています。安芸国分寺の瓦の文様には平城宮や難波宮と同じのものが使用されていて、瓦職人がこの安芸の地へやってくるということが考えられていました。今回の物指の出土は、建物をつくる専門技術者が、派遣されてきた可能性を示している貴重なものです。

精米臼の行方？

こにし さいじょうにしほんまち
小西遺跡 (西条西本町)



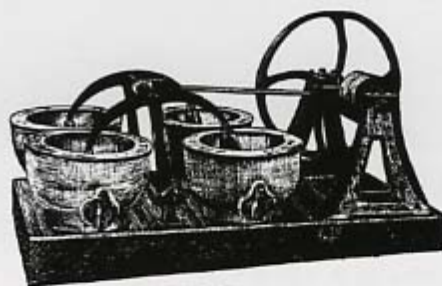
埋臼遺構

小西遺跡は西条西本町に所在し、西条中央巡回線改良事業に伴い、平成6・7年度（『阿岐のまほろばVol.6』）に引き続き平成10年1月に発掘調査を実施しました。調査の結果、弥生時代から近・現代までの生活跡が見つかりました。

なかでも目を引くのは、調査区のほぼ中央で見つかった土坑2基です。この土坑には、(株)佐竹製作所が今から100年ほど前（明治31年）に発明した、日本で最初の動力式精米機「4連唐臼搗精機」の臼の部分埋めてあったのです。

搗精（精米）機は、玄米を搗いて精げる（白くする）機械で、おいしい食事に関わる重要な過程の一つを担っていると言えるでしょう。

今回みつかった臼は、内面に糞尿の痕、無機質カルシウムがこびり付いており、便所の便槽として使われていたのでしょうか。食事から糞尿の処理まで活躍した臼に「おつかれさまでした」と言いたいですね。



よんれんからうすとうせいき
4連唐臼搗精機模式図



便所の便槽として使用した例

また出た、焼けた住居

ふきこし はちほんまつひがし
吹越遺跡 (八本松東四丁目)



平成8年度に続き、平成9年12月に調査された吹越遺跡からは、北向きの斜面につくられた焼けた住居跡が検出されました。

住居の中には、当時使われていた鉢形土器や甕形土器の破片とともに、焼け焦げて炭になった柱が大量に出てきています。出てきた土器から弥生時代後期後半(約1800年前)頃の住居跡であることがわかりました。この遺跡からは約2000年前の焼けた住居も出ていて(『阿岐のまほろばVol.8』に掲載)、今回のもので2軒となりました。

住居の中から出てきた土器は、完全に復元できるものが少なく、量もわずかですので、住居を捨てる時に、割れた土器や必要でない物を残したまま、建物に火をかけたのかも知れません。



吹越遺跡位置図 (1:50,000)

(財)東広島市教育文化振興事業団 文化財センター報

阿岐のまほろば Vol.12

発行日 平成9年 3月 31日

編集・発行 財団法人東広島市教育文化振興事業団 文化財センター
東広島市西条町大字馬木541-1
TEL 0824-25-3880 〒739-0033

印刷 中本総合印刷株式会社